

令和4年8月八戸市教育委員会定例会会議録

開催日時	令和4年8月31日(水) 午後1時30分		
場 所	市庁本館3階 議会第2委員会室		
出席者	教育長	伊藤	博章
	教育委員	築瀬	眞知雄
	教育委員	油川	育子
	教育委員	小瀬川	喜井
	教育委員	福井	武久
事務局出席職員	教育部長	石亀	純悦
	教育部次長兼教育総務課長	鈴木	伸尚
	教育部次長	大館	秀光
	博物館長	小保内	裕之
	学校教育課長	熊谷	誠二
	教育指導課長	梅内	太郎
	社会教育課長	三浦	幸治
	是川縄文館副館長	松橋	広美
	総合教育センター所長	河村	雅庸
	こども支援センター所長	佐々木	誠
	図書館副館長	磯嶋	奈都子

開 会

(伊藤教育長)

定刻となりましたので、令和4年8月教育委員会定例会を開会します。

本日の議事録署名は、油川委員を指定します。

それでは、はじめに私から、主な会議・行事等について説明いたします。

主な会議・行事等

(伊藤教育長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

本日は議案の提出がありませんので、報告事項にまいります。

はじめに「青少年のための科学の祭典 2022 八戸大会の開催報告について」事務局からの説明をお願いいたします。

【青少年のための科学の祭典 2022 八戸大会の開催報告について】

(河村総合教育センター所長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、御意見、御質問等ありましたらお願いいたします。

(小瀬川委員)

感想を申し述べたいと思います。新型コロナウイルスの感染状況が読めない中で、感染が拡大しないように様々な工夫に心を砕き計画してくださいましたこと、また無事に開催できたことに感謝を申し上げたいと思います。

数字からも見てとれるように、昨年度よりも多くの方に来ていただいて、またボランティアや大会スタッフの方々の数も、昨年度より120名ほど多く関わってくださっています。昨年度と同じことを申し上げるのですが、参加する側と支える側、どちらも豊かな時間を持てたのではないかと思います。コロナ禍で人と関わるということが非常に減っている中で、この科学の祭典が、参加する人と支える人にとって、一方的なものではなく、会話や交流がある相互の関係があることがすごくいいなと思いました。

また、ボランティアの方と少しお話させていただいたときに「どうやって来たのですか」と聞きましたら「友達と2人でバスを探して乗ってきた」、「家族が送ってくれた」などと話された学生さんがいて、この科学の祭典の時間以外にも、中学生や高校生がいろいろな経験をしているのだなと思いました。

申込用紙に「小学校3年生以下の参加者について、1組につき大人1名まで引率可能です」と書いてあるのですが、たくさんの保護者の方が子どもたちに付いて参加して下さって、親子で参加するところも非常にいいなと思いました。アンケートにもありますが、私も来年の開催を大変楽しみにしております。

(伊藤教育長)

そのほかございませんか。

(福井委員)

昨年から私はいつも理科離れが進んでいることについて、いろいろ言っておりましたが、この科学の祭典に参加して非常に勉強になり、大変いい企画だなと思いました。理論的には頭の中で分かっているけれども、実際その原理を利用したものを見るという機会はあまりないと思うので、これは体験活動する中でも非常にいいことだと思うので、もっと拡大して、さらに広げてやってほしいなと思います。

もう1点は、学校現場だけじゃなく、一般企業も入っているということに非常に感動しました。私ももらって育てていますが、名久井農業の高校生の「芝生小僧」というブースでは、人形の頭から髪の毛みたいに芝生が生えてくる物をいただけたり、一般企業の方々からもいろいろなパンフレットや資料とかもいただけて、様々な状況が分かったりしましたので、是非拡大して来年度以降も続けてほしいなと思います。ありがとうございました。

(伊藤教育長)

そのほか、委員の皆さんからございませんか。

(油川委員)

私も感想を述べさせていただきます。この事業の目的は、多くの青少年に科学に対する興味関心を高めるということであつたかと思えますけれども、この目的を達成するために、たくさんのブースが準備されていまして。まずそのブースの多さに驚かされたということが1つ目の感想です。

ブースを担当してくださった方々についてなのですが、さすが研究されている方々であつて、説明の仕方がとても親切で分かりやすかつたと思えました。提供する人、それからチャレンジする人が、質疑応答しながら体験できるということに対して、大変魅力的だかつたことが2つ目の感想です。

そして、ほとんどのブースが体験型だつたのですが、作つた物が全て完成品ではないからこそ、そこに工夫があり、学びというものが生まれたのではないかなということで、体験型、参加型のメリットというものを十分に活かせるような内容であつたと思つたのが3つ目の感想です。

そして、最後に4つ目の感想ですが、暑い中、感染防止を徹底しながら目的を達成するために、実行委員会の皆さん、それから事務局長を務められました河村総合教育センター所長をはじめとする御担当の皆さんが一生懸命励まれたことと思えます。その努力のおかげをもちまして、目的を達成することができたのではないかなと思えました。以上4点ほど感想を述べさせていただきましたが、このことに対しまして、心より感謝申し上げます。大変お疲れ様でございました。

(伊藤教育長)

そのほかございませんか。

(築瀬委員)

私も感想を述べたいのですが、その前に一つ、分かればお聞きしたいなと思います。事前申込みでの受

付けだったようですが、抽選を行ったということを知りました。申込みしても当選できなかった人もいるということですか。

(河村総合教育センター所長)

今回、申込者数を担当に確認したところ、全部で289名でした。結果を申し上げますと、4つの時間帯がありまして、全てに振り分けることができましたので、申し込んだ子どもたちは全員参加することができた状況となっております。

ちなみに、4つの時間帯の中で一番人気があったのは初日の午前中でした。今回開催に当たって、各小学校の全児童に案内が渡るように配布をしたわけですが、個人的な印象としては、もう少し申込みがあるのかなと感じていたところでした。私見にはなりますが、このコロナ禍の中で、子どもたちや保護者の方々にこういう御案内を差し上げても、なかなか申込みまでいけない家庭もあるのではないかと感じていましたので、来年度以降はそういうところも考えながら、より広く周知していければいいなと思っております。

(築瀬委員)

ありがとうございます。申し込んだ子どもたちが、みんな参加できたことは良かったなと思います。所長さんからも話があったように、やはり我々も保護者の立場であれば、たぶん申込みに迷うこともあると思うんです。しかし、だからこそ意義があったなと思っています。やっぱりそうやって切り開いていく、コロナ禍だからといって、何もイベントをしないということも考えものですので、そういった点では良かったなと思っています。

ちょっと振り返ってみると、私が教育委員になった平成25年度は5,779人という参加者で、65ブースのワークショップがありました。今の3倍ですね。ですから、参加者制限がない時代は、6,000人近い人数が参加していましたので、そういうことを考えると、新たなスタートについての科学の祭典のかなと考えていました。ウィズコロナと呼ばれる中で、是非これからも地道にやっていってほしいと思います。科学の祭典は全国組織ですから、全国的な流れも関係してくると思うのですが、是非、八戸独自の路線でやっていってもらえればうれしいなと思っています。

この資料のアンケートを見ても、子どもや保護者からの期待感が出ていますし、子どもたちの様子を見ても、すごく生き生きしているなと感じていました。やはり、みんなが集まってやることで、生の体験とか、会話をしながら教え合ったりとか、是非そういった良さをですね、これからも引き継いでやってほしいと思います。

最後になりますけど、今年度は大会スタッフ数が301人ってあるのですが、私が委員になった時は486人だったと記憶しています。その当時から比べるとスタッフ数は減ってはいるものの、十分な人数が確保できているのかなと思います。ですので、去年もそうだったんですが、今回も手厚い支援ができたように思っています。これまでもシャトルバスの運行とか様々な工夫を凝らしながらやってきましたが、そういったことに敬意を表しながら、さらに発展してほしいなと思っています。ボランティアやスタッフの皆さん、指導主事の皆さん、それから教育研究会の会長さんをはじめ多くの皆さんの協力があり、そして一体になった取組で良かったなと思っていますので、これからもよろしくお願いします。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。そのほかございませんか。教育委員さんからありがたいお言葉をいただきましたので、河村所長も何かの機会がありましたら、実行委員長や実行委員の皆さんに、こういうお話がありましたとお伝えした方がいいですね。平成8年度から始まって26回目になりましたが、全国でもここまで長く続けているのは稀有かもしれませんね。これもまた八戸ならではの、特に理科教育に力を入れてる土地柄でもあるのかなと思いますので、機会を見て、実行委員会やボランティアの皆さんによりしくお伝えください。

それでは、次にまいります。「本と雑誌のリサイクルフェアの開催について」事務局からの説明をお願いします。

【本と雑誌のリサイクルフェアの開催について】

(磯嶋図書館副館長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、御意見、御質問等ありましたらお願いいたします。

(福井委員)

質問になりますが、この取組は大変いい試みだと思っております。私も是非本を出したいなと思っておりますが、持っていくと駄目な本は、その場でチェックして返されるのでしょうか。

(磯嶋図書館副館長)

ぱっと見て、明らかに雑誌であるとか漫画本であるとか、すぐに分かるものは申し訳ありませんが、その場でお返しさせていただいております。ただ、こちらカウンターに立ちながら受付をしておりますので、段ボールとか袋に入っている場合などは、1冊ずつ出して確認するということはしませんので、そのまま受け取らせていただくことになります。その後に出せない本が混ざってれば、図書館で廃棄処分することになりますので、返却しない場合もございます。基本的には、一度受け取ったものは戻さない、その場で確認できたもので受け取れないものはお返しするっていう形でやっております。

(福井委員)

広報活動というのは、どのようになっているのですかね。申し訳ないのですが、私もあまり聞いたことがなかったので。

(磯嶋図書館副館長)

はい。広報はちのへに掲載しておりますのと、図書館のホームページにも掲載しております。あとは館内にポスターを掲示しています。広報はちのへが一番周知されているかなと思います。

(福井委員)

本を集める際に、一番困っていることは何かありますか。例えば、学校図書館から借りていた本とか学校の名前が入っている本を古本屋に出して断られたとか、そういう変な本を出されたとか、もし困っていることで言えることがあれば教えていただきたいです。

(磯嶋図書館副館長)

そうですね。意外とそういう本はないかと思います。ただし、作者からのサインが入った本で、しかも御自身の名前が入っているとかそういった本はございますね。あるいは御自身で蔵書印のように名前をスタンプしている方とかもいらっちゃって、そういう場合は状態が良くても一般の方にお渡しすることができないというのはあります。他にも、自分の中では汚れていないと思っている本を出された場合でも、よく見るとカビが生えていたりすることもありますので、そういった本はこちらの方で撤去して、廃棄することになります。

(福井委員)

分かりました。ありがとうございます。

(伊藤教育長)

そのほかございませんか。

(油川委員)

私もこの事業は大変いい内容だなと思って拝見したんですけれども、今、福井委員からも御質問あったように周知方法について一言お話させていただきます。先ほど御説明がありましたけれども、例えば、小・中学校の先生方を通して、児童生徒の皆さんにお伝えするなど、広く多くの皆さんにアナウンスできるような周知方法も、今一度御検討いただけたらなと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(磯嶋図書館副館長)

ありがとうございます。参考にさせていただきます。

(伊藤教育長)

そのほかございませんか。

[質疑なし]

そのほか、事務局から報告事項はありますか。

[なし]

事務局からは以上のようなようです。

それでは最後に「その他」ですが、委員の皆様方から何かございますか。

[なし]

閉 会

これもちまして令和4年8月教育委員会定例会を終了いたします。お疲れ様でした。

(午後2時11分閉会)